

ため池にすむ動物たち

姫路市立水族館長 市川憲平



珍しい生物に見入る子ども達

フナやモロコなどの魚類、トンボやゲンゴロウなどの昆虫類、タニシやドブガイなどの貝類、小さなエビの仲間など、多くの生き物たちが、数百年以上変わることなく、ため池を暮らしの場としてきました。ところが、二十世紀後半のわずか50年の間に、ため池で暮らしてきた多くの生き物が数を減らし、あるものは完全に姿を消しました。

それらに代わって目立つようになったのは、外国産の生き物たちです。ゼリーの大きなかたまりのようなオオマリコケムシは、毎年夏から秋にかけて、多くの池に姿を現すようになりました。巨大なネズミの仲間、ヌートリアは年々



なかなか見られなくなったカワバタモロコ

数を増やしているようで、あちこちの池に、緑色の糞が浮いています。車で近寄れる場所にあるほとんどの池で、オオクチバスやブルーギルの姿を見るようになりました。

外来魚の増えた池では、大きなコイやフナを除くと、在来魚はメダカもモロコもほとんど見つかりません。一時多量にいたウシガエルのオタマジャクシも消えてしまいました。オオクチバスやブルーギルに捕食された結果です。以前は普通に生息していたカワバタモロコも、加西市内ではいくつかの小池でしか見るができなくなりました。オオクチバスは、トンボのヤゴや成虫まで捕食します。絶滅危惧種のベッコウトンボも食べられているにちがいません。

外来魚を駆除しない限り、ベッコウトンボを保全することも、メダカやモロコの資源を昔のように回復させることも



害獣ヌートリア

も困難です。池干しなどによって積極的に外来魚を駆除していくことが、ため池の自然を保全・再生する上で非常に重要だと思います。

「ため池フォーラムの開催について」

加西市を代表する水辺空間である、ため池の多面的機能とその価値、歴史と文化、自然環境、利活用の現状と未来についてフォーラムを開催します。

4月号から加西のため池についてシリーズで掲載をしています。

開催日時：8/19（日）午後1時30分～5時

開催場所：加西市健康福祉会館 大会議室

池干しでため池を守る



昨年11月に上深池（野条町）で行われた池干しの様子。

ため池の生態系を守るためには、数年に1度池干しをし、外来魚を駆除する必要があります。

●ホームページ <http://www.city.kasai.hyogo.jp>
■広報かさいは、資源保護のため100%再生紙を使用しています。



大豆インキを使用しています。



発行/加西市
〒675-2395 加西市北条町横尾1000番地 ☎0790@1110 (代)
編集/加西市 経営戦略室 ☎0790@8700 FAX0790-43-1800